



灸道湖

第183号

2020年10月



由志園

水面に映る風景がとても幻想的です。

もくじ

教育研修部コラム「ソウゾウするチカラ」……	2～3
看護部広報委員会の活動について ……	3
仕事紹介:病院介護職として ……	4
病棟紹介 ……	5
「涼風薫る朝顔のグリーンカーテン」 ……	6

公用車が代わりました ……	6
「画伯になろう」 ……	7
開業医紹介 ……	8
地域医療連携室だより ……	9
外来診療表 ……	10



～ 教育研修部 コラム ～

“ソウゾウするチカラ”

呼吸器内科医長・教育研修部長 門脇 徹

長引いた梅雨のせいでしょうか？それともコロナ禍の影響でしょうか？…いつもよりも短く感じた夏が終わり、そして秋がやってきました。もちろん誰にとってもそもそも未来は少し見通せず、少し霧がかかっているものかもしれませんが、いつもより増して何だか濃くて見通しの立たない霧のような靄のようなものがずっとかかっているようです。これが晴れた時にはスッキリするのでしょうけど、うーん、何だかそのスッキリがまだまだ想像できません。

想像する、とはgoo国語辞書によると「実際には経験していない事柄などを推し量ること。また現実には存在しない事柄を心の中に思い描くこと。」という意味。我々医療人は前者の意味の「想像」をすることが大事です（前号の本コラムではfactをみることを説きましたが、それはそれでその上に、という意味です）。患者さんは全てを語ってくださるわけではありません。言葉そのものや言葉のトーンも重要ですが、表情や仕草などのnon-verbalな情報も相当重要です。そのひとつひとつから"思い"を汲まないといけません。病状が進行し、なかなか退院できない患者さんもいらっしゃいます。退院したいけど、なかなか思いを表出できない患者さんもいらっしゃいます。秘めた思いを想像し、伝えたい思いを伝えたい相手に、何とか橋渡しをする。。。我々はそんな想像力を持ちたい、持たねばなりません。

夏目漱石の「それから」の主人公の代助は「自分の神経は自分の特有なる細緻な思索力と、鋭敏な感応性に対して払う租税である…」

と言いました。この"神経"とは"神経質なところ"ということ。ここまでの感受性を持つと様々なことが気になってしまい、代助のごとく"租税"となり重荷になるのかもしれませんが、しかし、我々は"細緻な

思索力と鋭敏な感応性"を持って仕事に当たるべきなのです。決して思い込みで動いてはいけませんが、想像力をたんと働かせて動かなければいけません。これがひとつめの「ソウゾウするチカラ」。

もう一つのソウゾウは、同音異義語の創造。創造する、とは同じくgoo国語辞書によると「1. 新しいものを初めてつくり出すこと。2. 神が宇宙・万物をつくること。」という意味です。ここではもちろん「1」を意味しています。

我々医療人は想像することは比較的得意かもしれませんが、創造することは少し苦手かもしれません。まず、そこにある決まりや手順を遵守しなければならないからです。そういった意味では少々コンサバです。遵守することを疎かにしてしまうと、命を失うことに繋がってしまうこともあるからです。Evidence based medicine（証拠に基づいた医療）が叫ばれて久しい昨今。診断や治療にあたっては各疾患のガイドラインやステートメントをもとに行っています。まずはそういったスタンダードを踏まえることがこの世界では極めて重要なのです。しかし、あまりにコンサバすぎ（evidence重視になりすぎ）てしまうと、患者さんが見えなくなることがあるので要注意。もちろんコンサバなんだけどあくまで目の前の患者さんとのバランスが最重要です。中にはガイドラインやステートメントに書いてあることが当てはまらないケースもあります。というか往々にしてこういうことの方が多い。さぁその時こそ実はウデの見せどころなのです。

あれ、創造の話はどこにいった？いえいえ実は繋がっています。創造はゼロからはうまれません。今やっていることの上にうまれます。EBMはevidence

の蓄積ですが、それは先達が得た知見や患者さんのご苦勞の経験の積み重ねです。その上に常に我々が得たものを重ねていかなければなりません。解決できていない問題を解決すべく努力することも重要です。わからないことは研究して明らかにすることもできるし（これは結構powerいるけど）、経験的に気づきがあれば、それをルール化することもできます。今やっていることはおそらく正しいけれど、時間の経過とともに古くなっていくものです。コンサバすぎると硬化します。新しいものをつくり、重ねていき、またつくる…。そう、この創造は想像と同

じくらい大事なのです。これがふたつめの「ソウゾウするチカラ」。

このふたつの「ソウゾウ」はいずれも今あるものを超えるものです。今はカラッと晴れたピーカンの未来はソウゾウするのが難しいかもしれませんが、こんなときこそ新しいものをソウゾウしてみたい。そんなふうに向いていけるといいね！って思ったりしてみたり…

さぁ、みんなで乗り越えていきましょう！

看護部広報委員会の活動について

こんにちは、看護部広報委員会です。わたしたち広報委員会は看護部の活動を院内外にアピールすることを目的として活動しています。従来、健康講座「健幸スマイル教室」やサマーコンサートやクリスマスイベント、また看護の日にちなんだ「看護フェア」の企画・運営を行っていました。

しかし、今年は新型コロナウイルスの影響により、例年行っていた健幸スマイル教室やコンサート、院外での活動を中止せざるを得ませんでした。そのため、今年は例年とは異なった活動を新たに組みんでいます。

ひとつは、当院のホームページの看護部紹介ページの見直しです。毎年夏季になると、高校生や看護学生を対象とした看護体験や病院見学会を開催しています。見学会では、実際に病棟で血圧測定や、患者さんとのコミュニケーション、病棟看護師からの看護体験談を聞くなど学生の方々に体験していただいています。しかし今年は、新型コロナウイルスの感染を危惧してそれも中止となってしまいました。看護部の紹介ページを見直し、それぞれの病棟ではどのような看護を実践しているのかを発信し、学生の方々に興味を持ってもらえるようこの活動を始めました。

もうひとつは、院内のテレビチャンネルを利用した講義を始めました。健幸スマイル教室で行っている内容を編集しなおし、パワーポイントなどを用いて行っています。直接患者さんに向けてお話をすることはできませんが、テレビを通してさまざまな情報をお届けできたらと思います、この活動に取り組んでいます。

今年は例年と異なり、さまざまな催しができないのは残念ですが、新しい活動様式で院内、院外の方々に向けて、当院のPR活動に取り組んでいきたいと思っています。



病院介護職として

3階病棟 療養介助専門員 三島 諒

病院の介護職と施設の介護職の大きな違いは、高齢者に限らず、入院している幅広い年齢層の人を対象にケアをすることです。

松江医療センターは筋ジストロフィーやALS、重度心身障がい児・者などの様々な疾患を持つ患者さんがおられます。その中で、介護職は身体的な介助を必要とする人々が、安全で安楽、かつ快適に入院生活を送ることができるように身の回りのケアを中心に業務を行います。食事介助から入浴介助、排泄介助や移乗介助といった基本的なケアから、レクリエーションやマッサージなど患者さんのQOLを向上させるケアなど、内容は多岐にわたります。このようなケアをするためには、看護師と連携し、患者さん一人一人の状態やニーズをしっかりと把握しなければなりません。また、患者さんとコミュニケーションを取り、気持ちに寄り添うことも必要です。

病院は医療が主体ですが、介護職には医療行為はできません。しかし、間近で看護師の医療行為を見ることができるため、医療的な知識を習得することができます。また、褥瘡や嚥下障害などへの対処法など、介護施設とは違う視点から学ぶこともできます。

医療行為ができない代わりに、患者さんとの関わる時間を持ち、気持ちに寄り添い、より身近な存在でありたいと思います。

患者さんが1日でも、1回でも多く笑顔になれるよう頑張りたいと思います。



2階病棟

2階病棟は重症心身障害児（者）と筋ジストロフィーの患者が入院されている病棟です。人工呼吸器管理や医療的ケアの必要度が高い患者が多く、理学療法士、臨床工学技士等と連携し、合併症の予防や安全管理を心がけています。また、療養介護専門員や児童指導員、保育士と協力し、患者の病棟での生活が豊かになるよう、療育活動や院内行事、学校行事にも参加していただいています。

当院は緑が丘養護学校も隣接しており、学生の患者は病棟から学校へ登校、もしくは、直接教員が病室を訪問して授業を行っています。また、健康診断を兼ねたドッグ入院や福祉事業としてのショートステイ入院の受け入れなど、地域とも連携し患者を支えていけるよう取り組んでいます。



4階東病棟

4階東病棟は脳神経内科の病棟です。パーキンソン病、ALS、多系統委縮症、進行性核上性麻痺の患者さんが多く、主に長期療養、リハビリ、レスパイト、薬剤調整、ラジカット目的入院を受け入れています。現在は特にリハビリ目的入院に力を入れています。リハビリ入院ではパーキンソン病や進行性核上性麻痺で運動機能が低下し自宅で過ごしにくくなった患者さんが入院してこられます。4週間を目処に入院して、患者さん本人はもちろん、医師やリハビリスタッフ、看護師、地域医療連携室、在宅支援者を交えてカンファレンスを行いリハビリのゴールを決定して取り組んでいます。また、4階東病棟ではPNSを取り入れています。PNSとはパートナーシップのことでパートナー同士がお互いに持っている知識や技術を共有し、日々看護を行っています。患者さんが安全・安楽に生活できるようスタッフ一同で協力しながら看護を行っています。



「涼風薫る朝顔のグリーンカーテン」

療育指導室 児童指導員 門口 祐子

令和2年の夏は猛暑が続きましたが、当院2階の療育指導室隣にある中庭テラスでは、色とりどりの朝顔が咲いて、見事なグリーンカーテンになっています。そして廊下を通る皆さんに涼やかな風を運んでくれています。

この朝顔のグリーンカーテンは、1階病棟の療育クラブ「マイクラブ」のメンバーの利用者さんが、種の植え付けや水遣りを一生懸命行い、手塩にかけて育てました。

不思議なことに、夕方頃まできれいな花を咲かせています。朝顔の手入れをしている時、入院患者さんやスタッフの皆さんに「朝顔なのに、なぜ夕方まで咲いてるの？」と聞かれる時もありますが、「愛情をかけて育てていますから。」と答えています。

奈良時代の万葉集の中の一首をご紹介します。

「朝顔は 朝露負ひて 咲くといへど

夕影にこそ 咲きまさりけり」

現代語訳すると「朝顔は朝露を浴びて咲くというが、夕方の薄暗い光の中でこそ輝いて見える」という意味だそうです。

この中で歌われた朝顔は、現代の花でいうと桔梗の花のようですが、「マイクラブ」の朝顔は、朝も夕方も輝いて咲いています。 (2020/08/28)



公用車が代わりました

庶務班長 星原 昌美



空も泣いている！

令和2年7月28日（火）、梅雨空のもと1台の公用車がその役目を終えました。そう、事務部職員をはじめ多くの職員に愛された「クラウン」が松江医療センターを去ることになったのです。国立療養所松江病院時代から約20年以上に渡り当院で運行業務を支えてくれました。来院者の送迎をはじめ職員の出張やイベントなど数多くの場面で活躍してくれました。

昨年には「エスティマ」が当院を去りました。国立療養所時代から継承された財産がまた一つ去っていくことに一抹の寂しさを感じてやみません。



国立療養所から独立行政法人に、平成から令和へ時代の変わり目に常にそこにいたクラウンは松江医療センターの歴史の立会人、いや立会車（しゃ）、立会者（しゃ）であることに間違いありません。

そして後を継ぐのは「ノア」です。7人乗りなのでもっと多くの場面で活躍が期待されています。令和の新しい時代に公用車が「クラウン」から「ノア」に代わるという歴史舞台に立ち会えたことを大変感慨深く感じた一日でした。



「画伯になろう」

療育指導室 主任保育士 渡部みどり

7月2日(木)に院外行事代替院内行事「画伯になろう」と題し、3名の利用者の方と職員共同で「105cm×150cm」のキャンパスに絵の具と筆を使って、夏の風物詩「花火」を表現しました。

初めに、昨年の松江水郷祭花火大会で打ち上げられた西日本最大級の湖上花火を大画面で視聴しました。夜空に映える花火の光、色彩、音から花火のダイナミックさを感じていただけたと思います。



次は利用者の皆さんと職員の共同作業。柄の長さを調節できる棒に筆を取り付け、職員がサポートしながら、好きな色で丸を描く人、トントンと筆を動かし点描きをする人などそれぞれのペースで自由に描いていきました。するとだんだんとキャンパスが一つの作品へとつながり、最後にみんながもうひと筆加えると迫力あるダイナミック

な「花火」の作品が出来上がりました。利用者の皆さんと職員が共に楽しそうに表現する姿を見て、「表現するっていいな。カッコいいな。」と改めて感じました。作品は、後日病棟に展示させていただきます。作品を見ていただける機会があれば、ぜひ、たくさんの方に見ていただきたいと思います。



開業医紹介コーナー

病病・病診連携 No.30 たまゆ内科クリニック

私は自治医科大学卒業、その後9年間島根県で地域医療に携わり、そして島根大学第二内科で消化器内科を専攻したのち、平成22年10月出身地である松江市玉湯町に内科として開業して10年がたちます。

現在、内科診療、健診、予防接種、訪問診療中心に行っております。高齢者が多い地域のため生活習慣病・呼吸器・消化器・循環器疾患全般の診療を行っております。

日頃、診療レベル維持のために学会・講演

会を利用することが多いです。特に呼吸器・神経疾患は貴院の先生方が直接指導していただける貴重な機会として参加することを楽しみにしています。現在コロナ禍でその開催が困難ですが、今後も何らかの形でしていただけることを期待しています。

スタッフ一同、今後もお互いの顔が見える医療連携ができるよう心掛けていきたいと考えております、引き続きよろしく願いいたします。



たまゆ内科クリニック 院長 越野健司

〒699-0202 松江市玉湯町湯町825-1

診療日・診療時間

月火木金 8:40~12:15、15:00~17:00

水土 8:40~12:15

*休診日 日曜日・祝祭日



地域医療連携室だより 第40号

2020年10月

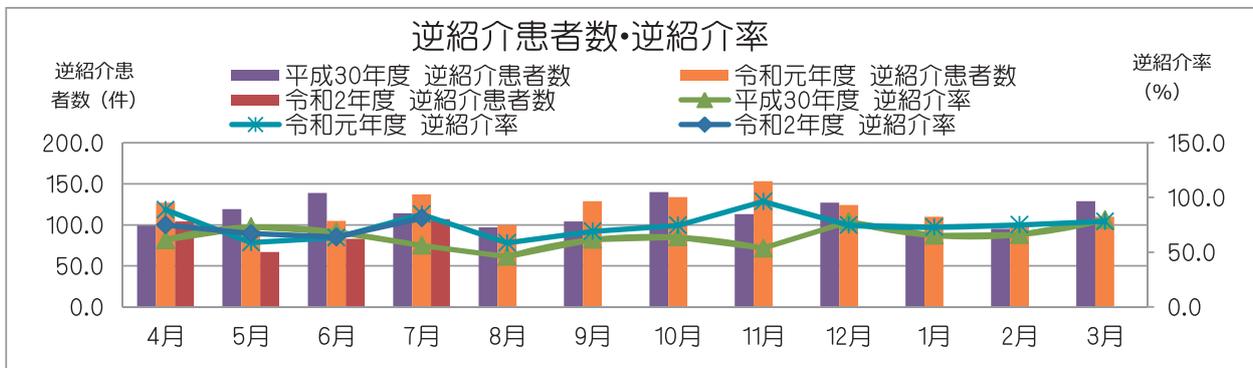
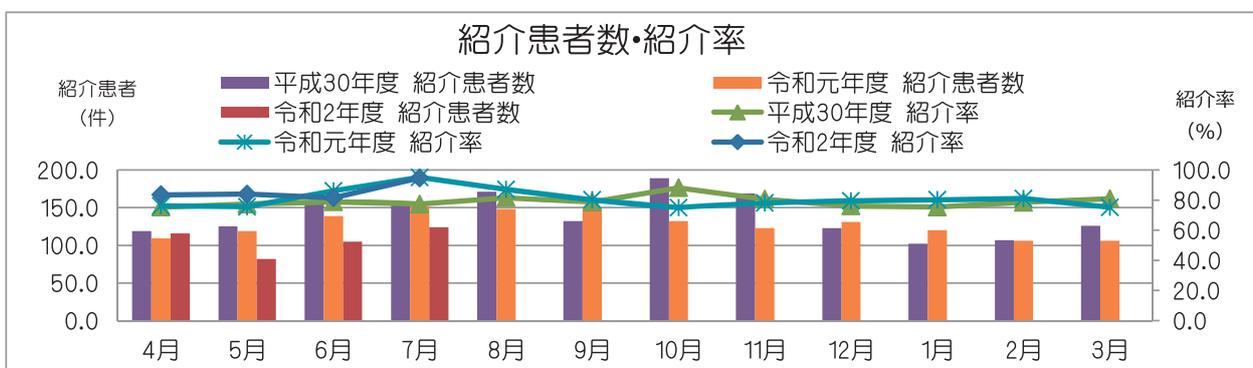


【時間外の対応について】

呼吸器疾患で緊急にご紹介いただく患者さまにつきましては
24時間対応させていただいておりますので夜間・休日に関わらず
下記にご連絡ください。

☎0852-21-6131（代表）または 0852-24-7671（地連）

1. 紹介患者数・紹介率 / 逆紹介患者数・逆紹介率の推移



2. 退院支援データ 毎週対象病棟で退院支援カンファレンスを実施しています

年度 月	R2	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	R1
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
退院支援患者(人)	252	134	177	179									186
退院先	在宅(人)	103	58	75	95								75
	施設(人)	0	1	0	1								2
	病院(人)	9	6	2	4								6

※逆紹介率とは、当院から開業医さんや他の病院へ紹介させていただいた患者さんの割合です
逆紹介率 = 逆紹介患者数 ÷ 初診患者数 (休日、夜間の救急患者を除く)

外来診療表

お気軽にご相談下さい

令和2年10月1日現在

診療科	曜日	月	火	水	木	金	専門領域
呼吸器内科		岩本(初)	多田(初)	木村(初)	門脇(初)	池田(初)	【呼吸器内科】 井岸 正 池田 敏和 小林賀奈子 木村 雅広 門脇 徹 多田 光宏 岩本 信一 西川恵美子 坪内 佑介 【院長】呼吸器一般 【統括診療部長】呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般
		多田	小林	岩本	西川	木村	
		井岸	門脇	池田	坪内	小林	
循環器内科						生馬	【循環器内科】 生馬 勲 循環器一般
脳神経内科		中島 (完全予約制) (不定期隔週)	古和	深田	足立	交替制	【脳神経内科】 中島 健二 古和 久典 足立 芳樹 中野 俊也 細田 義人 下山 良二 深田 育代 【名誉院長】脳神経内科 (完全予約制・不定期隔週) 【副院長】脳神経内科 【臨床研究部長】脳神経内科 【診療部長】脳神経内科 脳神経内科・リハビリテーション 脳神経内科 脳神経内科
		中野	下山		細田		
呼吸器外科		荒木		目次		荒木	【呼吸器外科】 荒木 邦夫 目次 裕之 【診療部長】呼吸器外科・一般外科 呼吸器外科・一般外科
小児科	発達 専門外来	久保田 (予約)	齋田 (予約)	齋田 松村 (予約)	久保田 (予約)	齋田 (予約)	
小児科	予防接種		(予約)				【小児科】 齋田 泰子 久保田智香 松村 渉 重症心身障害・小児神経・摂食機能障害 発達障害
	腰痛外来		(予約)	西村 (予約)			
麻酔科	肺がん検診	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)	【麻酔科】 西村友紀子 麻酔科領域
	睡眠時無呼吸外来				呼吸器内科 担当医(予約)		
特殊	息切れ外来		呼吸器内科 池田(予約)				【小児科】 齋田 泰子 久保田智香 松村 渉 重症心身障害・小児神経・摂食機能障害 発達障害
	喘息 アレルギー外来					池田 (予約)	
外来	咳嗽外来					池田 (予約)	【麻酔科】 西村友紀子 麻酔科領域
	禁煙外来				毎週木曜日 呼吸器内科 担当医(予約)		
外来	アスベスト外来		多田 (予約)	木村 (予約)	門脇 (予約)		診療時間 8:30~17:15 受付時間 8:30~11:30 自動再来受付 8:00~11:30 独立行政法人 松江医療センター 国立病院機構 呼吸器病センター 〒690-8556 松江市上乃木5丁目8番31号 電話 (0852) 21-6131(代) 医療連携室直通電話 (0852) 24-7671 医療連携室 F A X (0852) 24-7661
	もの忘れ外来			深田			
その他	セカンド オピニオン外来	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)	

特殊 外来	肺がん検診	診療日：毎週月～金曜日 15:00～17:00 (要予約) 内容と特色：ヘリカルCTを使用し、小さな肺がんも発見できます。 料金5,500円
	睡眠時無呼吸外来	診療日：毎週木曜日 14:00～16:00 (要予約) 内容と特色：いびき、睡眠時無呼吸症候群の診断治療を行います。
	息切れ外来	診療日：毎週火曜日 13:00～15:00 (要予約) 内容と特色：息切れの診断と治療を行います。
	喘息 アレルギー外来	診療日：毎週金曜日 9:00～12:00 (要予約) 内容と特色：成人気管支喘息、花粉症。個人個人に合わせた予防法、日常生活指導から最新の治療まで。
	慢性咳嗽外来	診療日：毎週金曜日 9:00～12:00 (要予約) 内容と特色：3週間以上長引く咳(せき)や喉の異常感でお悩みの方。
	禁煙外来	診療日：毎週木曜日 10:00～12:00 (要予約) 内容と特色：禁煙を希望される方の検査、診断と相談に応じます。
	アスベスト外来	診療日：毎週火・水・木曜日 8:30～11:00 (要予約) 内容と特色：石綿(アスベスト)曝露による肺障害を発見するための検査と診断を行います。
	神経難病外来	診療日：毎週火・木曜日 9:00～12:00 神経難病外来
	もの忘れ外来	診療日：毎週水曜日 9:00～12:00 内容と特色：もの忘れの診断と治療を行います。
	小児科発達 専門外来	診療日：毎週月～金曜日 9:00～12:00 (要予約) 内容と特色：ことばや運動の発達の遅れ、低身長などの発育の異常、ひきつけなどの疾患に対する診断・治療療育相談を行っています。投薬、理学療法など通常治療のほかデイケアでの遊戯療法も行っています。
腰痛外来	診療日：毎週水曜日 9:00～12:00 (要予約) 内容と特色：主にぎっくり腰などの痛みの治療を行っています。薬物療法や神経ブロックなどで痛みの緩和を目指します。	
セカンド オピニオン外来	診療日：(完全予約制) 紹介状が必要です。 内容と特色：呼吸器・呼吸器外科・脳神経内科・小児科(筋ジストロフィー)の専門医(医長)が担当いたします。	